

5 施策の展開

5.1 【基本方針1】 柏らしい生きもの多様性を守り、育てる

施策の
方向性

1-1

生きものの多様性を保全する

施策 1-1.1

河川、湖沼の保全

■方針

河川や手賀沼とその周辺における多様な生態系の保全と回復

■方向性

本市には大規模な河川である利根川と、中小河川である利根運河、大津川、大堀川などと、大規模な湖沼である手賀沼があります。

河川、湖沼の水辺は、多様な生きものが生息する本市の生態系を特徴づける重要な場所です。これらの水辺の生態系の保全を図るため、健全な水循環を確保すると共に、水生生物調査や生活排水対策の実施などにより、水辺環境の状況の把握と情報発信を行います。また、手賀沼においては、関係団体との協働による水辺環境の保全と回復、再生を行います。

さらに、気候変動に伴う豪雨災害等への緩和策として、グリーンインフラの活用を含め、雨水浸透の促進及び地下水の涵養を図ります。

■取組

項目	内容
湿地環境の保全再生	河川、湖沼、谷津における多くの生きものが生息する湿地環境を保全・再生します。
河川、水路等の多自然化	河川や水路の機能を向上させつつ、生物の生息・生育環境の保全・再生を行い、さらに歴史・文化と結びついた川づくり、水路づくりを進めていきます。
河川と流域との連続性の確保（保水と流量の確保）	河川流域の水路、池、沼、水田と河川との連続性を確保し、水源涵養機能を持つ樹林や農地の保全、市街地における雨水浸透施設の整備等により、雨水浸透の促進及び地下水の涵養を図ります。また、雨水貯留施設の整備により水資源の保全を促進します。
地下水の適正な保全及び利用等による水循環の確保	地下水の水源の保全を図るため、事業者に対し、事業場内において雨水の浸透を図ること並びに地下水の効率的な使用及び節水に努めることや、雨水の積極的な利用等について働きかけを行います。
水生生物の保全に配慮した水質の保全（生活排水対策の推進）	生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を目的に、国や県が設定する生活環境や水生生物の保全に配慮した水質目標に応じて、その達成のための水質監視を行うほか、下水道計画に基づく整備と供用開始に伴う接続促進活動をはじめ、し尿と生活雑排水を併せて処理する合併処理浄化槽への転換促進や浄化槽の適正な維持管理指導など、生活環境改善に係る啓発を行います。

■方針

里山林や斜面林の整備・保全・活用への支援

■方向性

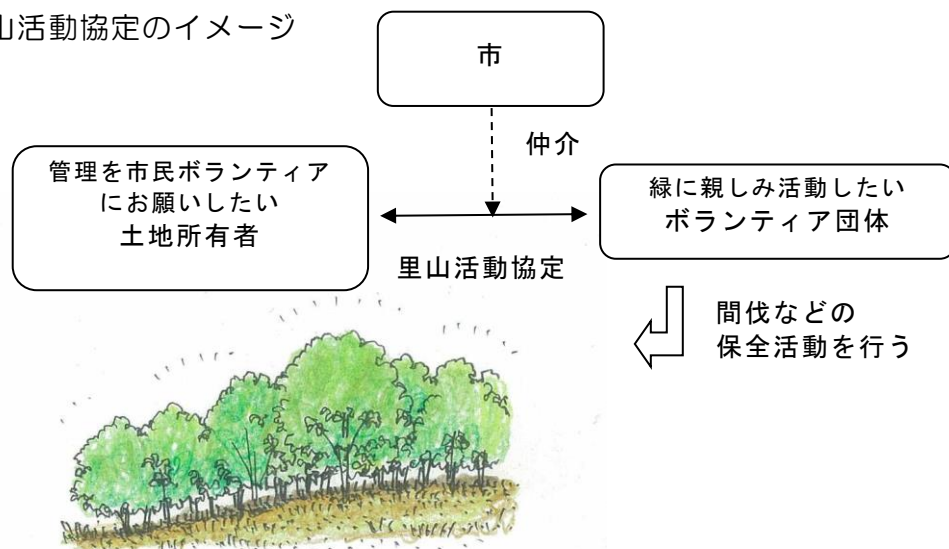
本市では、台地上や台地と低地の境界部分に多くの里山林が残され、そこに多くの湧水があります。それらは、本市を特徴づける生態系である樹林地や谷津が一体となった里山を形成しています。

それらへの関心を高め、重要性を理解してもらうため、市民等の里山づくりの活動を支援していきます。

■取組

項目	内容
里山活動協定の締結及び推進	土地所有者・市民・市が協働して里山の保全・管理・活用を実施することにより、地域の自然環境の保全及び生活環境の向上を図っていくため「里山活動協定」の締結を推進します。
斜面林を保全する仕組みの検討	本市を特徴づける要素となっている斜面林について、担保性を向上させる仕組みの創設を検討していきます。 具体的には、一定の基準を満たす斜面林について、制約条件を新たに課すかわりに、維持管理の支援を行うといった（仮称）斜面林保全地区制度や新たな保全条例の検討、近隣市と合同で手賀沼斜面林を保全するネットワークづくりの検討等を行っていきます。
里山保全活動の担い手づくり	里山保全活動に必要な知識や技術の普及を図るため、里山ボランティア入門講座の内容充実を図り、自然とふれあえる田園地域や里山の環境整備を推進する活動の担い手を育成します。

◆里山活動協定のイメージ



出典：柏市緑の基本計画
(令和2年4月、柏市都市部公園緑政課)



増尾城址公園の樹林地



手賀沼沿いの布瀬斜面林

■方針

谷津や湧水を活かした「生きもの多様性空間」の整備と活用

■方向性

本市では谷津の斜面林に多くの湧水を見ることができます。これらの湧水は谷津田の水源となると共に、多くの生きものの生息場所である水辺や湿地を作っています。また、谷津田は、水を蓄え、自然のダムとしての洪水防止機能や水質浄化機能を有しており、昔から親しまれてきた田園風景の地でもあるため、自然環境基盤として、水循環や景観の観点からも重要な環境です。

これらの湧水周辺の自然の多様性、地域の特徴的な水辺環境を保全し、その存在を知ってもらうため、これらの湧水を活かした自然環境活動、環境学習の場となる「生きもの多様性空間」を形成していきます。

■取組

項目	内容
谷津を保全する仕組みの運用	昔から親しまれてきた豊かな谷津景観を重要な環境資源として将来にわたって維持・再生するため、「柏市谷津保全指針」及び「柏市谷津田保全要領」に基づき、谷津田、湧水、斜面林等の多様な環境要素を一体とした保全を検討していきます。
湧水地の保全	健全な水循環を確保するため、湧水及び地下水並びに地下水が涵養される地域の保全に努め、名戸ヶ谷ビオトープなど、湧水を活用した水辺空間の保全を推進します。
既存ビオトープの維持管理等の活動の支援	市民団体によって管理された市街地内の湧水地である「名戸ヶ谷ビオトープ」「酒井根下田の森緑地」「こんぶくろ池周辺」のビオトープは、その保全活動を支援すると共に、その豊かな生態系を活かした環境学習の場等として、市民が湧水周辺の生きもの多様性に関心を持ってもらえるよう運営管理していきます。
人里の生きものの生息空間の復元の検討	人里の生きものの生息空間を復元し、その活動を通じて次世代を担う子ども達の水環境への関心を高める活動を行います。すでに市民等により、生きものの生息空間の保全と再生活動が行われている場所を当面の対象地として選定し、将来的には保全と再生に関わっている市民等とも協議し、新たな生きもの多様性空間の保全と再生の対象地を検討していきます。



手賀の谷津の農地と斜面林



谷津の風景

出典：かしわの記憶（web 版）市 HP より



戸張湧水



中の橋湧水



イボ弁天湧水



寺谷ツ湧水



増尾湧水

■方針

田畑や水辺の生態系を育む拠点のネットワークの保全と再生
環境保全型農業の推進

■方向性

本市では、湧水で生まれた水の流れが、田畑を潤し、水路を通じて手賀沼や利根川に注ぎます。これらの水の流れは水生生物やそれを餌とする生きものの生態系ネットワークの基礎となっており、保全と再生が必要です。

水と生きものの生息域のネットワークを保全・再生し、拠点となる水田の生きものの生息適地化と復田を進めていきます。

また、すでに本市では、一部の農業関係者による減農薬等の環境保全に配慮した農業が行われていますが、さらに適切な環境保全型農業を推進することにより、生きもの多様性保全の機能が発揮されます。有機農業や生きものに配慮した農業についての普及啓発、環境保全型農業の実施に必要な有機農業者の認定制度、より環境に配慮した農業を推進する農業管理手法の推進及び支援を行います。

■取組

項目	内容
農地と水辺のネットワークの保全	河川から田畑、水路、ため池、集落などを水と生態系のネットワークで結び、生きもの多様性に配慮した農業生産や農地や水路、里山の維持管理活動を支援します。
遊休農地の解消	農業委員会と連携し、遊休農地の現況把握に努めるとともに、地域の話し合いを通じて貸し手と借り手をマッチングし、担い手への農地集積を図るなど、生態系ネットワークを形成する重要な要素である農地機能の復元に努めます。
認証制度の推進	環境負荷の少ない農業を推進するため、県と連携し、「エコファーマー」「ちばエコ農産物」などの認証制度や、「GAP（農業生産工程管理）」の取得に向けた農業者支援のほか、広く制度の周知等を行います。
総合的病害虫・雑草管理（IPM）の推進	生きものへの影響を低減する農業を行うため、「総合的病害虫・雑草管理（IPM）」を推進し、生きもの多様性保全をより重視した防除を推進します。
環境保全型農業の推進	農薬の適正使用等について農業者に周知を図るとともに、国・県の補助制度を活用するなど農薬や化学肥料の低減に積極的に取り組む農業者を支援します。



大青田の畑と農家の植栽



大津川沿いの水田

■方針

絶滅のおそれのある種と生息環境の保全、野生鳥獣の保護管理

■方向性

本市では、以前は当たり前のように見ることができた動植物が、開発や環境の悪化によりなかなか見られなくなっています。

野生生物の種は、生きもの多様性を構成する重要な要素であり、その絶滅を防ぐことは、私たちの責務であると言えます。そのため、柏市自然環境調査結果に基づくホットポイントについて、生きものの生息状況を定期的に調査し、その保全と再生に必要な施策を行います。

また、本市では、手賀沼周辺などに野生鳥獣の保護を目的とした県が指定、管理する鳥獣保護区が指定されており、野生生物の保全を図るため、県に対して適切な鳥獣保護区の範囲検討の働きかけを行います。

■取組

項目	内容
ホットポイントの現状把握	柏市自然環境調査結果に基づくホットポイントについて、生きものの生息状況の経年変化を把握していきます。
ホットポイント（公用地）における保全	ホットポイントのうち公用地においては、庁内の関係部署との連携を密に図りながら、生きもの生息域の保全・回復・再生、外来種の防除など、必要な施策を重点的にを行います。
ホットポイント（民有地）における保全	公用地以外の民有地においては、開発等で要保全種の生育場所が失われる可能性がある場合、条例等に基づく事前協議の際、要保全種への影響が少なくなるよう事業者等に対して要請するとともに、生息域内保全が難しく、他に保全手段がない場合でも、保全可能な場所への移植など生息域外保全を検討するよう要請します。
希少種を保全する仕組みの運用	人里の生きものリスト掲載種や市域で生息が確認されたレッドリスト掲載種（資料編参照）については、ホットポイントにおける保全方法を通じ、その保全を図ります。また、要保全種が面的に存在している場所については、その場所を特別緑地保全地区（都市緑地法）、風致地区（都市計画法）、保護地区（柏市緑を守り育てる条例）等の制度による保全を検討します。
適切な鳥獣保護区の範囲の検討	野生生物の保全を図るため、県に対して、適切な鳥獣保護区の範囲の検討を働きかけます。



メダカ

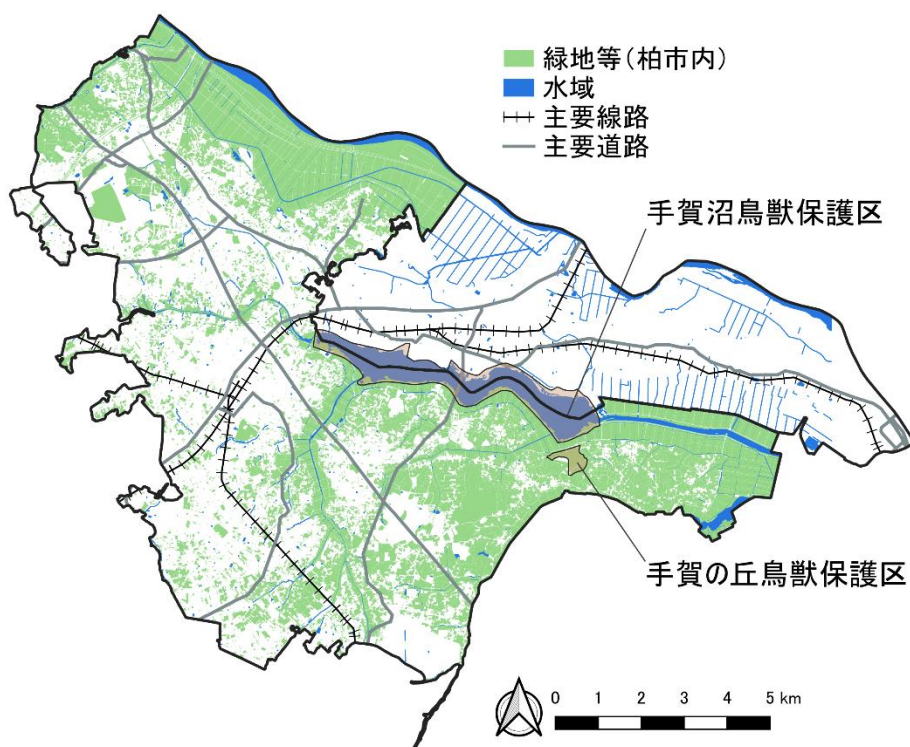


シュレーゲルアオガエル



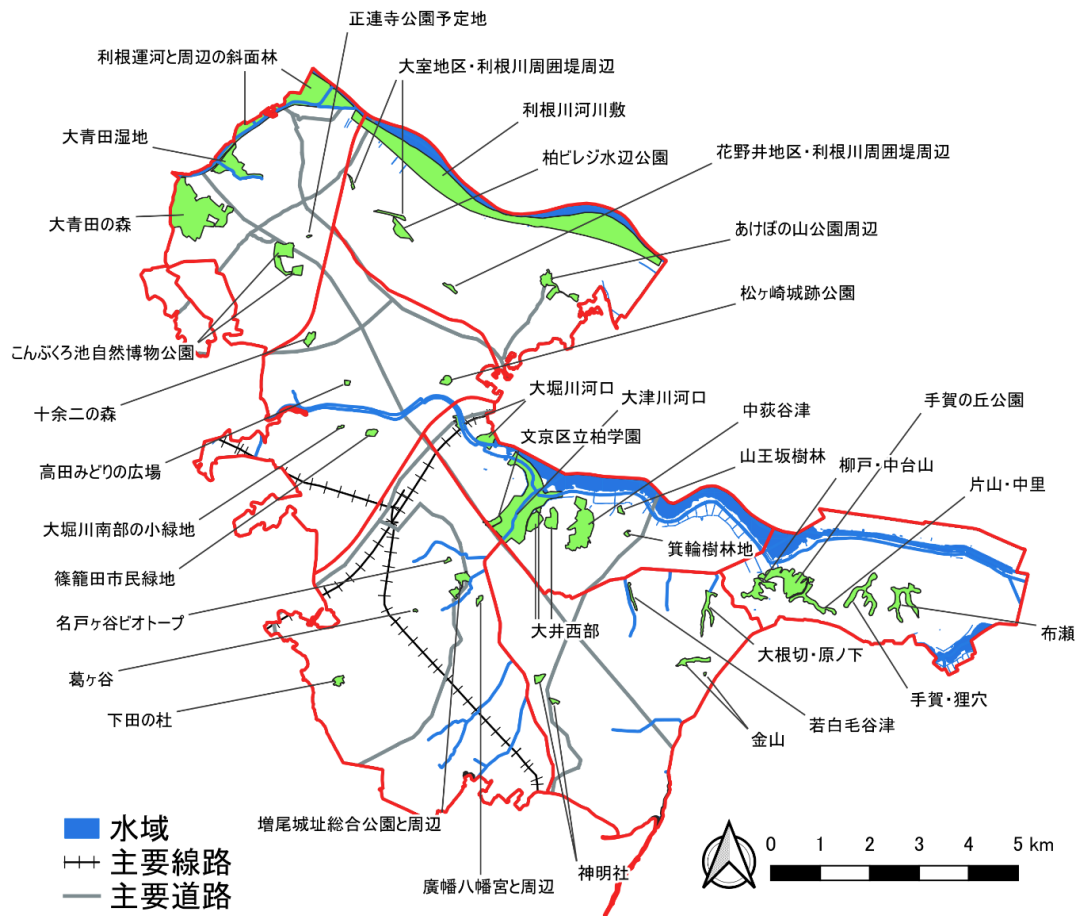
コバギボウシ

◆ 柏市の鳥獣保護区



資料) 令和2年度千葉県鳥獣保護区等位置図
(北部地区)(千葉県)より作成

◆ホットポイント



利根運河エリア	利根運河と周辺の斜面林	手賀沼西エリア	大堀川河口
	大青田湿地		大津川河口
	大青田の森		文京区立柏学園
	こんぶくろ池自然博物館		大井西部
	正連寺公園予定地		中荻谷津
利根川エリア	利根川河川敷	手賀沼東エリア	山王坂樹林
	大室地区・利根川周囲堤周辺		箕輪樹林地
	花野井地区・利根川周囲堤周辺		手賀の丘公園
	柏ビレジ水辺公園		柳戸・中台山
	あげぼの山公園周辺		片山・中里
大堀川エリア	十余二の森		手賀・狸穴
	高田みどりの広場		布瀬
	松ヶ崎城跡公園		
	篠籠田市民緑地		
	大堀川南部の小緑地		
大津川西エリア	下田の杜		
	増尾城址総合公園と周辺		
	名戸ヶ谷ビオトープ		
	葛ヶ谷		
	廣幡八幡宮と周辺		
大津川東エリア	神明社		
	若白毛谷津		
	大根切・原ノ下		
	金山		

■方針

外来種等の抑制

■方向性

外来生物については、外来生物法の施行により、令和 2 年 11 月現在 156 種類の特定外来生物が指定され、生態系などに被害を及ぼす外来生物に関する規制が行われています。

本市においても、哺乳類や植物、水生生物などに、新たな外来種の侵入が目立ち始めており、法の主旨に則り、公共空間や柏市自然環境調査で生きものの生息域として重要と考えられる場所について防除を進めていきます。

さらに、本市の外来種等の実態に即して、県の防除計画を踏まえながら県や近隣自治体等と連携し、必要な防除策を検討し、実施していきます。

一方で、野生鳥獣の中には農作物への被害を及ぼすものもあり、被害軽減のための施策も推進します。

■取組

項目	内容
外来種等の防除施策の推進	千葉県防除計画を踏まえながら県等と連携し、必要な防除策を進めていきます。
河川や道路などの公共空間における外来種等の防除	行政が管理する公共空間での外来種の防除を推進します。
有害鳥獣による農業被害の対策	有害鳥獣被害を最小限に抑え、営農環境を維持するため、有害鳥獣による農業被害の未然防止に向けた対策を実施します。
外来種、他地域生物との交雑防止対策の普及啓発	外来種、他地域生物との交雑防止のための施策への理解を促進するため、これらの施策に関する普及啓発を進めます。
遺伝子組換え生物等に関する情報の普及啓発	カルタヘナ法の適切な施行を通じ、遺伝子組換え生物等の使用等による生きもの多様性への影響を防止する施策などについて、普及啓発します。
外来生物に関する情報の普及啓発	特定外来生物の輸入や飼養の規制など、外来生物法の適切な施行を通じ、市民等や事業者に対し、生きもの多様性を保全するための外来種の取扱いに関する普及啓発を進めるとともに、身のまわり等で発見された場合の適切な対処方法等についても周知していきます。

■方針

緑地の保全・再生・創出・管理に係る施策の推進

■方向性

本市では、緑地の保全・再生・創出・管理に係る総合的な計画として、平成 21 年 6 月に「柏市緑の基本計画」を策定し、令和 2 年 3 月に、施策の進捗状況や都市緑地法などの大幅な改正との整合性について検証を行い、法改正に伴う改訂を行いました。

緑の基本計画に基づき、緑の量の確保とともに、水と緑の質を向上させ、樹林地や農地、水辺を良好な状態で保全し、公園やオープンスペースなどの緑を身近に確保するなどの施策を推進することによって、生きもの多様性が維持・創出され、生態系ネットワークが形成されることを目指します。

■取組

項目	内容
都市公園整備、都市緑化、緑地保全の推進	緑の基本計画の施策の実現を推進し、都市公園の整備、緑化の推進や緑地の保全を進めます。
都市公園のネットワーク強化	主要公園等の緑の拠点相互間の生態系ネットワークを強化し、「みどり」の活動拠点としての多面的な機能を高めていきます。
生きもの多様性に配慮した公園の運営管理	個々の公園の特性に応じた公園管理を行うための「パークマネジメントプラン」策定において、生きもの多様性への配慮の視点を加え、公園の運営管理に反映していきます。
公園における生きもの生育・生息場所の確保	地域の公園緑地内に、地域住民の参加による地域の希少種保全や再生などを行い、その維持管理においては、地域の市民及び市民団体と行政の協働で行います。
法規制による緑地の保全	法規制による緑地を保全するための仕組みである、緑地保全地域、特別緑地保全地区、風致地区、市民緑地制度、生産緑地地区等の制度を用い、生きもの多様性にとって重要な緑地保全を図ります。

■方針

開発行為における生きもの多様性の重要性に関する普及啓発

■方向性

生態系に大きな影響を与える開発行為には、事業者、計画者、施工業者などの多くの関係者が存在します。開発行為において生きもの多様性を保全するためには、これら多くの関係者が、生きもの多様性に関する重要性を十分認識し、開発行為に参加してもらう必要があります。

そのためには、これら開発行為の関係者に対する普及啓発が必要であり、生きもの多様性に関する情報提供や保全手法の周知等などを行います。

■取組

項目	内容
開発行為の関係者に対する生きもの多様性に関する普及啓発	条例等に基づく開発事業者との事前協議の際、要保全種への影響が少なくなるよう要請するとともに、生息域内保全が難しく、他に保全手段がない場合でも、保全可能な場所への移植など生息域外保全を検討するよう要請します。これらを通じ、開発行為の関係者に生きもの多様性保全の視点を持ってもらうための普及啓発を進めます。
重要な緑地減少に対する対策ガイドライン（仮称）の作成	重要な緑地が減少することによる自然環境等への影響を緩和するため、ミティゲーション ^(*) の手法を用いて、開発などに対する緑地の保全・復元・創出にかかわるガイドラインの策定を検討します。

*ミティゲーション：建設事業などの人為的行為に伴い自然環境への影響が予想される場合に、回避、低減、代償などによって、自然環境への影響を緩和すること。

■方針

公共施設や民有地における緑地の保全・創出・管理の推進

■方向性

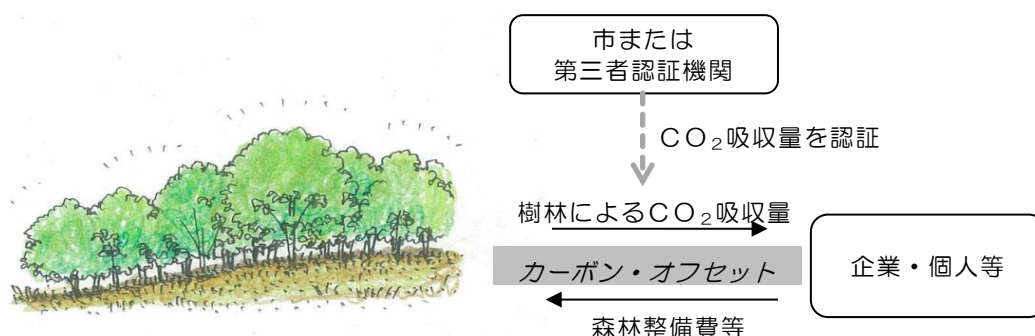
都市公園や道路などの都市施設、大規模公共施設等の生きものの多様性に配慮した緑化や、生きものの多様性保全のために重要な市街地内の樹林地に対する法規制による保全、民有地の緑化などを行っていきます。

■取組

項目	内容
公的施設の緑化の推進	都市部での生態系ネットワークの形成のため、都市施設や公共施設の外構部や屋上に対する緑化を推進します。
民有地における緑の創出の推進	「柏市緑を守り育てる条例」及び「柏市緑化指導要綱」等に基づき、地域の実情と特性にあわせた緑化基準を設定し、民有地の緑化を推進します。
カーボン・オフセット ^(*) による緑地保全	企業や個人等が斜面林の維持管理や樹林整備などに資金を提供すること等により、排出した二酸化炭素（＝カーボン）を埋め合わせ（＝オフセット）する仕組みの創設を検討していきます。
緑の保全・再生・創出・管理に係る評価制度の普及啓発	開発事業における緑に関わる取組を評価し、優秀な事例については認定・表彰することで事業者の努力を促すための建築物における緑化を評価する制度（「CASBEE 柏（建築環境総合性能評価システム）」や「SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）」、「JHEP（ハビタット評価認証制度）」等制度の普及に努めます。

*カーボン・オフセット：日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方。

◆カーボン・オフセットによる緑地保全のイメージ



出典：柏市緑の基本計画
（令和2年4月、柏市都市部公園緑政課）

◆公的施設の緑化



市役所分庁舎の緑のカーテン



柏市第二清掃工場の壁面緑化



緑のカーテンづくり（柏第六小学校）



緑のカーテン（中原小学校）

■方針

広域的生態系ネットワークの形成

■方向性

多くの生きものは多様な生態系を移動しつつ生息しています。本市においても、利根川における流域圏との生物のつながり、手賀沼における我孫子市等とのつながりなど、周辺地域と連続性のある地域であり、広域的な生態系ネットワークが形成されていると考えられます。

これらの生きものの生息域や生育場所を保全・再生するためには広域的な施策が必要です。

そのため、市域を超えた広範囲での生態系ネットワーク形成を図る施策や、関係計画との調整、関係部署、自治体等との連携・協働を実施していきます。

■取組

項目	内容
広域的な生態系ネットワークの形成	本市の市域外まで連続する水系や自然地との広域的な生態系ネットワークを形成するため、関係機関と連携・協働による生態系保全を推進します。
関連計画、関連部署との連携	緑の基本計画、都市計画マスタープランなど、生きもの多様性保全に関係する計画との連携を図ると共に、広域生態系ネットワーク構築に必要な関係部署との連携を図ります。
他自治体等との連携	本市の姉妹都市協定等に基づく他自治体での生きもの多様性保全活動への支援や、市民等によるボランティア活動、本市に飛来する野鳥の飛来地間ネットワークによる協働など、他自治体等との連携を推進します。

5.2 【基本方針2】生きもの多様性への関心を高め、広げる

施策の
方向性

2-1

生きもの多様性を知る機会をつくる

施策 2-1.1

自然体験活動の推進、機会づくり

■方針

生きもの多様性についての普及啓発を行う環境学習施設の拡充

■方向性

本市には、環境学習研究施設として「かしわ環境ステーション」があります。

この施設は、環境の学習や研究の場として、また環境保全活動を行う市民や団体の交流の場として利用できる施設となっています。

今後は、「生きもの多様性」に関する普及啓発、研究、情報交流に関する機能も合わせ持つ施設及び拠点として、「かしわ環境ステーション」の機能拡充を検討します。

また、保全活動団体やボランティア等とのネットワークづくりを通じ、多様な主体との連携による自然とふれあう機会や学び場の創出を行います。

■取組

項目	内容
かしわ環境ステーションの機能拡充	従来の機能に加え、生きもの多様性に関する普及啓発、研究、情報発信に関する機能をもつ施設や拠点として機能拡充を検討します。
かしわ環境ステーション等との連携	かしわ環境ステーションや各ビオトープでの市民団体活動等を通じて、各種展示や自然観察会など、自然とふれあう機会や場の創出を行い、「自然共生社会」を「循環型社会」「脱炭素社会」の構築と統合的に捉える視点に基づいた普及啓発を図ります。

■方針

生きもの多様性と循環型社会・脱炭素社会との関係についての普及啓発

■方向性

資源の大量消費に始まる近代社会は温室効果ガスの大量放出を招き、そのことは地球温暖化による気候変動と環境破壊さらに食糧危機へとつながっています。そして現在では、それらの地球規模の変化が、生きもの多様性に影響を及ぼし、生態系を破壊しつつあります。

これらのことを理解するためには、「生きもの多様性保全」を「循環型社会」「脱炭素社会」の構築と統合的に捉える視点が重要であり、この視点に基づいた普及啓発を行います。

また、生きもの多様性の保全を進めるために、将来の生きもの多様性の保全と回復を担う子ども達を中心とした多くの市民への普及啓発を行い、自分の住んでいる周辺の自然環境を知り、愛着を持ち、探究心を芽生えさせるための取り組みを進めていきます。

■取組

項目	内容
学校における環境教育の拡充	小・中・高校における「自然共生社会」を「循環型社会」「脱炭素社会」の構築と統合的に捉える視点に基づいた環境教育の拡充を図ります。
学校での生きもの多様性についての普及啓発	児童の生きものや生態系への関心を高める普及啓発策として、特定の動植物を対象とした「生きものの写真収集」などを行います。

■方針

柏市自然環境調査の継続と情報の蓄積・発信

■方向性

野生生物の種は、生きもの多様性を構成する重要な要素であり、その絶滅を防ぐことは、私たちの責務であるといえます。市域で確認された生きものの生息状況の変化を把握し、状況に応じた適切な施策を実施するためにも、定期的な自然環境調査を行っていくとともに、その結果と併せ、本市の自然環境を積極的に PR していきます。

また、今後調査を継続させていくため、自然環境調査を行う担い手募集や人材の育成に向けた支援を行います。

■取組

項目	内容
定期的な自然環境調査の継続	市域で確認された生きものの生息状況の経年変化をしっかりと把握できる調査手法に基づき、定期的な調査を行い、蓄積された情報を関係機関と共有・発信しながら、生きもの多様性の保全の取り組みに活用していきます。

■方針

外来種、他地域生物との交雑防止対策等の情報発信・普及啓発

■方向性

外来種、他地域生物との交雑が在来種の生存を脅かし、絶滅へ追いやる危険性があることを、市民等や事業者の方に理解してもらう必要性があり、その危険性についての普及啓発を行っていきます。遺伝子組換え生物は、自然には存在しないものであり、生態系の混乱をもたらす可能性があります。遺伝子組換え生物による生きもの多様性への影響を防止するため、その影響について普及啓発を行っていきます。

特定外来生物も在来種に大きな影響を与える存在であり、既存の生態系を保全するために必要な情報の普及啓発を行います。

さらに、公園等の公共施設における農薬等の適正利用に努めるとともに、家庭での菜園やガーデニング等において、農薬等化学物質の使用を抑制する方策等の普及啓発を行います。

■取組

項目	内容
外来種、他地域生物との交雑防止対策の普及啓発【再掲】	外来種、他地域生物との交雑防止のための施策への理解を促進するため、これらの施策に関する普及啓発を進めます。
遺伝子組換え生物等に関する情報の普及啓発【再掲】	カルタヘナ法の適切な施行を通じ、遺伝子組換え生物等の使用等による生きもの多様性への影響を防止する施策などについて普及啓発します。
外来生物に関する情報の普及啓発【再掲】	特定外来生物の輸入や飼養の規制など、外来生物法の適切な施行を通じ、市民等や事業者に対し、生きもの多様性を保全するための外来種の取扱いに関する普及啓発を進めるとともに、身のまわり等で発見された場合の適切な対処方法等についても周知していきます。
事業者内における環境教育等の普及啓発	事業者に対し、生きもの多様性に対する保全意識の浸透を図るための環境教育等の実施について啓発します。
農薬等化学物質の使用抑制の啓発	家庭での菜園やガーデニング等において、農薬等化学物質の使用を抑制する方策等の普及啓発を進めます。

■方針

環境負荷の少ない暮らしの創造

■方向性

私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定など、生態系サービスによって支えられていますが、社会経済状況やライフスタイルの変化によって、生きもの多様性の 4 つの危機に対する負荷が大きくなっています。

そこで、私たち市民の暮らしの中で、生きもの多様性に配慮した製品の利活用、地産地消を推奨し、持続可能な発展のできる仕組みの浸透を図ることが重要です。

■取組

項目	内容
市民に向けた生きもの多様性配慮の啓発	旬産旬消や地産地消による生産や輸送に必要なエネルギーの削減をはじめ、公共交通や自転車などエネルギー負荷の少ない交通移動、グリーン購入や 3R の取り組みの推奨、水循環を意識した上下水道の使い方など、市民に対して、日常の暮らしの中での生きもの多様性に配慮したライフスタイルの啓発を行うとともに、生きもの多様性への配慮の各種認証制度や地元の農産物の PR 等を行います。
環境に配慮した住まいづくりの推進	建築物の省エネルギー対策や長寿命化、周辺の街並みとの調和、緑化対策など、総合的な環境配慮を進めるため、「CASBEE 柏」の取組を推進し、建築主等の環境配慮に関する自主的な取り組みを促し、環境性能の優れた建築物の整備・促進を図ります。 また、省エネ家電の普及、省エネ（窓の断熱改修）、創エネ（太陽光発電）、蓄エネ（蓄電池）、見える化（HEMS）等による CO ₂ 排出量の少ない環境に優しい家や ZEH 住宅の普及促進などにより、環境に配慮した住まいづくりを推進します。

5.3 【基本方針3】生きもの多様性のために行動する

施策の
方向性

3-1

主体的な行動を支援する

施策 3-1.1

制度を活用した保全・管理活動の推進

■方針

法規制による生きもの多様性の保全

■方向性

生きもの多様性を保全していくためには、事業として実際に活動を行っていくと共に、法規制による保全策を行う必要があります。

法規制による保全策として、生きものを保全する法規制、生態系を保全する法規制を組み合わせつつ、生きもの多様性の保全を進めます。

一方、開発行為は環境に大きな変化をもたらし、生態系を一変させてしまいます。これら開発行為の関係者に対する普及啓発が必要であり、生きもの多様性に関する情報提供や保全手法の周知等などを行います。

■取組

項目	内容
「種の保存法」に基づく保全	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づく希少野生動植物種について、生息環境の保全を図ります。
法規制による緑地の保全【再掲】	法規制による緑地を保全するための仕組みである、緑地保全地域、特別緑地保全地区、風致地区、市民緑地制度、生産緑地地区等の制度を用い、生きもの多様性にとって重要な緑地保全を図ります。
条例等に基づく保全	里山や樹林地は、「千葉県里山条例」の「里山活動協定」や「柏市緑を守り育てる条例」の「保護地区」を活用した保全を図ります。
地域の自主的な合意形成による保全	谷津保全指針に基づく活動協定の制度等により、市民団体や協同組合等の地域の関係者の合意による保全活動を支援します。
開発行為の関係者に対する生きもの多様性に関する普及啓発【再掲】	条例等に基づく開発事業者との事前協議の際、要保全種への影響が少なくなるよう要請するとともに、生息域内保全が難しく、他に保全手段がない場合でも、保全可能な場所への移植など生息域外保全を検討するよう要請します。これらを通じ、開発行為の関係者に生きもの多様性保全の視点を持ってもらうための普及啓発を進めます。
緑の保全・再生・創出・管理に係る評価制度の普及啓発【再掲】	開発事業における緑に関わる取組を評価し、優秀な事例については認定・表彰することで事業者の努力を促すための建築物における緑化を評価する制度（「CASBEE 柏（建築環境総合性能評価システム）」）や「SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）」、「JHEP（ハビタット評価認証制度）」等制度の普及に努めます。

■方針

多くの生きものとふれあえる空間づくり、活動の支援

■方向性

本市では、オオタカやサシバなどの猛禽類を見ることができますが、これらの猛禽類は、開発、樹林地の減少、農薬使用による餌の減少など生息環境の変化により、なかなか見られなくなってきています。

将来にわたってそれらの生息・生育環境を維持するために、事業者、市民等の参加により生育環境の保全と再生を行い、多くの生きものとふれあえる空間としての活用を図っていきます。

また、それらへの関心を高め、重要性を理解してもらうため、市民等の里山づくり等の活動を支援していくとともに、活動団体の PR 等も行っていきます。

■取組

項目	内容
環境保全型農業とふれあう空間づくり	環境保全型農業を推進する場所において、学びの場や遊びの場として活用し、農業や生きもの多様性の認識を深める活動を推進します。
魅力ある交流拠点の活用の推進	農業・農村が生きもの多様性に果たす役割について市民の理解を促進するため、グリーンツーリズムなど都市と農村の交流を促進するほか、地域資源を活用した魅力ある交流拠点の活用を推進し、生きもの多様性にふれる機会を創出します。また、貴重な沼南地域の自然環境、地域資源等の情報発信を行い、地域の農業と自然への関心を高め、沼南地域と都市住民との交流を促進します。
ボランティア・市民団体などによる里山づくり活動の推進	地域とボランティア、市民団体などとの連携による里山林や湧水地の活用による住民参加の里山づくり活動を推進し、また、里山活動ボランティア入門講座を行い、ボランティア活動の活性化を図ります。
里山活動協定の締結及び推進 【再掲】	生きもの多様性保全に対する理解を深め、自然との共生のあり方を学ぶ取組として、地主と市民及び市民団体を結ぶ「里山活動協定」の締結を推進します。
保全活動団体の PR	生きもの多様性に関する正しい理解と保全活動を広めってもらうため、各種展示や自然観察会など、自然とふれあう機会や場の創出を支援していくとともに、自然保全活動の担い手づくりの支援として、保全活動団体の PR 等を行っていきます。

■方針

市民等との連携・協働 による水辺づくり・緑づくり

■方向性

水辺の生きものや生態系の保全と回復のためには、流域全体での一体的な計画の立案や施策の実行が必要とされるだけではなく、関係する住民等との協力が欠かせません。地域の住民等が、水辺に関心を持ち、水辺づくりを自分達の課題として感じてもらえるよう、積極的に関わってもらえる事業や枠組みを作っていきます。

■取組

項目	内容
市民等との協働による水辺の管理	市民や市民団体、企業等との協働による清掃活動、ビオトープ整備や水際植生の復元などを行います。
河川を利用した環境教育や自然体験活動	「子どもの水辺再発見プロジェクト」や、市民団体による幅広い世代を対象とした河川を利用した豊かな自然体験活動を推進します。
水生生物調査	市民等の参加を得ながら、水生生物の調査を行い、状況の把握と市民等への情報の提供を行います。

■方針

協働体制を活用した情報共有による生きもの多様性の保全の推進

■方向性

利根運河や手賀沼に関係する施策など、多くの自治体や機関が関係するプロジェクトで築かれた協働体制を利用し、広域的な生きもの多様性に関する情報や知見を得るために、積極的に県・関連自治体との情報交換を行います。

■取組

項目	内容
水辺環境保全ネットワークによる生きもの多様性保全の推進	千葉県、流域市、各種市民団体等で構成する手賀沼水環境保全協議会等の関係団体により形成される「水辺環境保全ネットワーク」により、市民等・事業者・行政の協働による手賀沼の生きもの多様性の保全・回復を進めます。

■方針

大学・企業等との連携による生きもの多様性の保全の推進

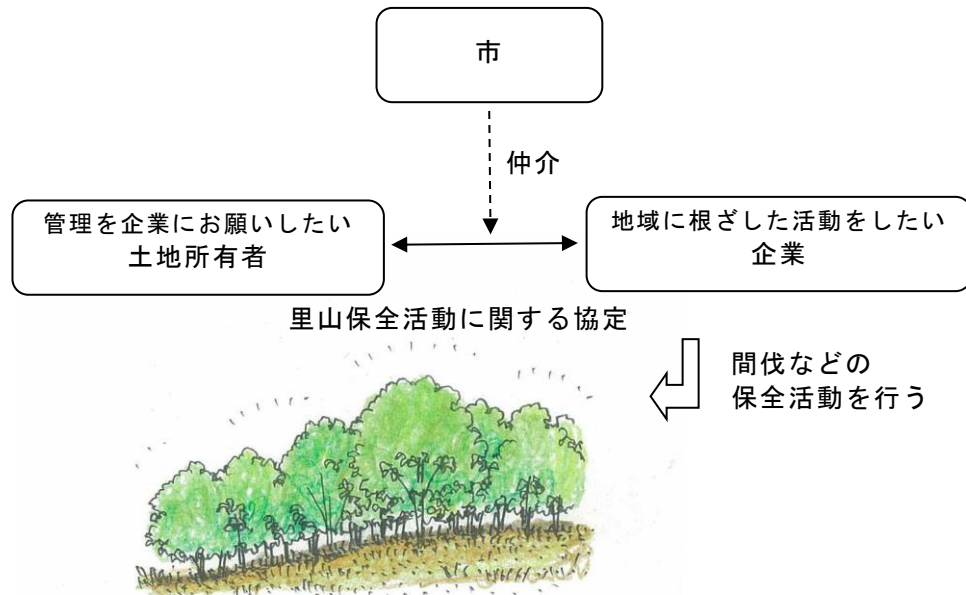
■方向性

大学等の研究・教育機関は、生きもの多様性についての最新の知見や多くの情報を持ち、具体的な活動の経験の蓄積もあります。この特性を活かし、市民等の取り組みの支援や啓発を進めていくとともに、企業等との連携による保全活動を推進していきます。

■取組

項目	内容
大学・企業等との連携・協働	大学等の研究・教育機関における最新の科学的知見に基づく情報を活かし、市民等への普及啓発や、企業等の生きもの多様性に配慮した事業活動への支援を進めていきます。
里山活動協定【事業者版】（仮称）の創設	現在運用している里山活動協定制度は、市が土地所有者とボランティア団体の仲立ちを行うものですが、その仕組みを活用して土地所有者と企業の仲立ちを行う制度の創設を検討します。

◆里山活動協定【事業者版】のイメージ



出典：柏市緑の基本計画
（令和2年4月、柏市都市部公園緑政課）